

メールマガジン埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.329 2021.1.22

**県議会テレビ番組「こんにちは県議会です」
1月1日(金・祝)放送「新春インタビュー」
(主要会派代表議員)**

県議会広報テレビ番組「こんにちは県議会です」(テレビ埼玉)では、各定例会の様など県議会に関するさまざまな情報を放送しています。

今号のメールマガジンでは、ご覧になれなかった方のために、前号に引き続き令和2年11月16日に収録し、1月1日(金・祝)に放送した「新春インタビュー」(主要会派代表議員)の内容をお伝えします。



☆放送スケジュールなどは、県議会のホームページからご覧になれます。》

INDEX



県議会広報

〈こんにちは県議会です「新春インタビュー」〉

- ・埼玉県議会自由民主党議員団 小島信昭団長
- ・無所属県民会議 岡 重夫代表
- ・埼玉民主フォーラム 木村勇夫幹事長
- ・埼玉県議会公明党議員団 西山淳次団長
- ・日本共産党埼玉県議会議員団 柳下礼子団長



議事堂の花

生け花のご紹介



県議会広報

【こんにちは県議会です「新春インタビュー」】

◆埼玉県議会自由民主党議員団 小島信昭団長◆

団長 埼玉県議会自由民主党議員団団長の小島信昭です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



—昨年のご感想をお聞かせください。—

団長 昨年は新型コロナウイルス感染症という、これまで経験したことのない危機に直面しました。医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆さまの献身的な働きと、県民の皆さまのご協力があったからこそこられました。「二代表制の一翼を担う県議会の最大会派として何をすべきか」を常に考え、奔走した1年でした。県民の生命を守り、生活を支えるために全力で取り組まなければならないと気持ちを新たにいたしました。

—会派として、どのようなことに力を入れて取り組まれたのでしょうか。—

団長 まずは、県民の皆さまの切実な声をきめ細かくお伺いするところから始めました。危機に直面して最も重要なのはスピード感です。難しい舵取りをする知事に、県内各地の現場のニーズを集約して要望として伝え、感染拡大防止や、検査や医療の提供体制の整備などに尽力いたしました。

さらに、6月定例会では、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の設置を提案しました。私が委員長となりまして、県執行部の対応について、保健、医療、福祉、教育、情報発信など幅広い分野にわたり、真摯(しんし)に審査を行い、10月には64項目の提言を知事に提出いたしました。

—収束にはまだ時間がかかりそうですね。—

団長 事態は刻々と変化し、新たに対処すべき課題が浮上してきます。今後も県議会で論議を尽くし、安心した生活が1日も早く取り戻せるよう力を尽くしてまいります。

—今年の抱負をお聞かせください。—

団長 今年は埼玉県が誕生して150年になります。先日、記念ロゴマークとキャッチコピーが発表されました。

「こころ、咲いたまま」というキャッチコピーのとおり、コロナ禍にあっても734万県民が、心を通いあわせ、笑顔あふれる1年にしたいと思っております。

感染症への対応は予断を許さない状況です。そのほかにも超高齢社会への対応や、災害対策、経済対策と取り組まなければならない課題は山積しています。私たち自由民主党議員団は、社会情勢を見据えた大胆な政策提言を行うとともに、日々の暮らしの中で「埼玉に住んで良かった」と思ってもらえるよう、今年も全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

[▲トップへ](#)

◆無所属県民会議 岡 重夫代表◆

代表 無所属
県民会議の岡
重夫です。今
年も県民目線
でしっかりと取
り組んで参りま
す。



どうぞよろしくお願ひいたします。

—昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—

代表 昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で県民の皆さんの生活が大きく変わり、これまで経験した事のない激動の1年でした。まずは、お亡くなりになられた皆さまのご冥福をお祈りするとともに、感染されている方々の一日も早い回復をお祈りいたします。私たちは、大変厳しい経営状況にある地元の中小零細企業や、病院、飲食業などの皆さまの生の声を聞き、知事や執行部に提言をして参りました。そのうち、例えば親が感染した場合に子どもを児童相談所で一時預かりを行う仕組みや、経営困難となった医療機関への支援などが実現しました。

そして、対策を進めるには、さらなる財源が必要で9月定例会ではわれわれが提案者となり議員報酬を削減して、新型コロナ対策の財源とするための条例案を提案しました。しかし、多くの会派に賛同いただきましたが、最大会派が反対したため、残念ながら実現には至りませんでした。

—今年はどうのようなことに取り組まれていこうとお考えですか。—

代表 今年之最優先課題もやはり新型コロナウイルス感染症の拡大防止策だと考えています。昨年秋に会派として新年度予算編成に対する要望書を取りまとめ、「全庁あげての危機管理対応」「県民福祉に注力する予算編成」「コロナ禍で奮闘する中小企業支援」という三本柱を重視するよう求めました。今後はこれらが予算化され、県民の皆さまが安心して生活できるように、行政のチェック機能を確実に果たして参ります。

—年頭に当たっての抱負をお聞かせください。—

代表 県民の皆さまに開かれ、時代に即した議会となるよう既得権の打破、先例の洗い直しなど議会改革にも積極的に取り組んで参ります。また昨年は、埼玉県迷惑行為防止条例の改正に向けたプロジェクトチームを組織し、調査・研究を行ない12月定例会に提出しました。今年も県民の暮らしを守る政策や条例の提案に向けて活動して参ります。

[▲トップへ](#)

◆埼玉民主フォーラム 木村勇夫幹事長◆

幹事長 埼玉民主フォーラム幹事長の木村勇夫です。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



—昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—

幹事長 令和2年はとにかく新型コロナウイルス感染症一色の1年でした。当初は、ここまでの影響が出るとは、想像していませんでしたが、緊急事態宣言が出され、営業の自粛や移動制限など社会生活が一変してしまいました。この間の医療に関わるすべての方々のご尽力に心から感謝を申し上げます。夏に予定されていた東京オリンピック・パラリンピックも延期となってしまいました。とにもかくにも、大変な1年であったと思います。

—今年はどうのようなことに取り組まれていこうとお考えですか。—

幹事長 新型コロナウイルス感染症の第3波が襲って来て、年末・年始の行事も自粛が余儀なくされています。まずは感染拡大の防止に全力で取り組み、医療崩壊を防ぎ、そのうえで、社会経済活動との両立をしていかなければならないと考えます。

今後は、経済の状況もかなり厳しくなり、生活が厳しくなることが予想されます。地域の皆さまの声を聴き、スピード感をもって対応していきたいと思えます。

—年頭に当たっての抱負をお聞かせください。—

幹事長 新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組み、この国難ともいえる未曾有の危機を何としても乗り越えて、夏の東京オリンピック・パラリンピックを迎えたいと思えます。そして、県内で行われる予定のサッカー・バスケットボール・ゴルフ・射撃の4競技を成功させるために私たちも全力でサポートしてまいります。

私たち「埼玉民主フォーラム」は、10名の議員で活動しています。日々地元地域を歩き、地域の声をしっかりと受け止め、その声をかたちにすべく、今年も明るく、全力で取り組んでまいります。

[▲トップへ](#)

◆埼玉県議会公明党議員団 西山淳次団長◆

団長 埼玉県議会公明党議員団団長の西山淳次です。本年も何とぞよろしくお願いいたします。

—昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—



団長 昨年は、何と言っても新型コロナウイルス感染症によって日本だけでなく世界中が大きく揺れた年でした。本県も大野知事をはじめ執行部、そして私たち議会側も懸命な努力を重ねた1年だったと思えます。

—引き続き対策が必要ですね。—

団長 そうですね。この冬のインフルエンザとの同時流行も心配です。今年も社会経済活動への影響を最小限に抑えながら、感染拡大を防止していく難しい舵取りが必要です。

—コロナはさまざまな面に影響を与えましたね。—

団長 飲食、観光、文化芸術、それにスポーツといった業界は本当に厳しかったと思います。各種の支援策を活用し、何とか頑張ってもらいたいです。医療体制もさらなる充実が必要です。一方で、テレワークの普及など、新しい動きも活発になってきました。

—テレワークの普及などは、ある面ではいいことかもしれませんね。—

団長 コロナは、成長と効率性をひたすら追い求めてきた現代社会の脆弱さ、課題を浮き彫りにしました。その反省を踏まえて、経済の在り方や、人間と自然、都市と地方といった重要かつ大きな課題をどう再構築していくのが、今、問われています。アフターコロナの社会をどう展望して、舵取りをしていくのか。これは政治の最大の課題であり、本年はそのスタートになるべき年だと思います。

—具体的にはいかがですか。—

団長 私たちは、これまでも重点政策として、地域の絆を中心にした地域包括ケアシステム、共生社会の推進、温暖化防止などの地球環境問題、さらには、災害は必ず起きるという前提に立った県土強靱化、それらの課題をとりまとめる理念としてのSDGsを訴え、推進してきました。こうした政策の方向性はアフターコロナの社会構築にとってますます重要になると確信しています。ぜひとも本県から、未来を展望した新しい価値と政策を発信していきたいと決意をしています。

[▲トップへ](#)

◆日本共産党埼玉県議会議員団 柳下礼子団長◆

団長 日本共産党埼玉県議団の団長の柳下礼子です。今年も命と暮らしを守るために全力をつくしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



—昨年を振り返っての感想をお聞かせください。—

団長 新型コロナウイルスが世界中に広がり、埼玉県では自宅待機中の陽性患者が亡くなるという、あってはならないことが起きました。また保健所に電話してもつながらないなどの問題も噴出しました。この根本には、人口10万人当たりの医師の数が最も少ないという医療体制のぜい弱さと保健所を統廃合し、職員を減らしてきたという問題があります。9月定例会で行った一般質問では廃止した所沢・飯能保健所の復活、医師・看護師不足の解消を求めました。それに対し、「保健師の増員を図った上で、今後の保健所体制の整備についてしっかりと検討していく」、医師確保については「全力で取り組んでいく」と前向きな答弁がありました。引き続き取り組んでまいります。

—今年はどうのことに取り組んでいこうとお考えですか。—

団長 新型コロナの影響で県民の生活も苦しくなっています。中小企業、個人事業主、ひとり親世帯、非正規労働者、学生などコロナ禍で苦しん

でいる方への直接支援とともに消費税減税が必要です。引き続き取り組んでまいります。

—今年の抱負と決意をお聞かせください。—

団長 昨年、菅首相は就任直後のあいさつで「まずは自助」と掲げました。しかし政治の仕事は「公助」、暮らしを守り良くする「公」の責任を果たすことです。政治の仕事である公的責任放棄するような政権を続けさせるわけにはまいりません。市民と野党の共闘を発展させ政権交代を実現してまいります。

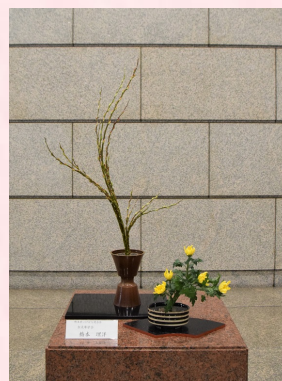
[▲トップへ](#)

❁ 議事堂の花

このコーナーでは、議事堂ホールに飾られた生け花をご紹介します。
【協力 埼玉県いけばな連合会】



◆展示期間
11月30日～
12月4日
◆作者
関東未生流
大野芳甫様
◆花材
蔓梅擬、杉、
ヒイラギ、百
合、野菊



◆展示期間
12月7日～
12月11日
◆作者
古流華栄会
橋本理洋様
◆花材
赤芽柳、菊

◇◆生け花の作者の方にお聞きしました！◆◇



〈関東未生流 大野芳甫様〉

Q: 季節の催しを体現したような、華々しい作品ですね。

A: 華やかな百合やヒイラギはクリスマスをイメージさせ、蔓梅擬を竹の二重切へ生けることでお正月を想起させるような季節感あふれる作品に

仕上げました。

Q:和を感じさせる竹の花器に、洋風のお花がマッチしていて素敵ですね。

A:未生流では、生花の中にアーティスティックな手法を取り入れています。日本と外国両方のお祭りをモチーフにした作品から、秋から冬へと季節が移行していく様子を感じていただけたらと思います。



〈古流華栄会 橋本理洋様〉

Q:赤芽柳の芽が色づき始めていて、良い色合いですね。菊の花も明るい印象です。

A:冬になると芽の先から赤く色づいていきます。枝まで赤くなり、さらに進むと芽から穂が出ます。穂が出るころの芽は白く、銀色に光ってきれいです。このように秋から春にかけて長く楽しめる花材です。また、菊の花をアクセントに明るい作品にしました。白い菊に変えると雰囲気が変わりましたね。

Q:赤芽柳の生け方と菊の生け方の違いを教えてください。

A:左の赤芽柳は古流の中でも真型というスタンダードな形です。それに対し右の菊は草型といって真型から形をくずしたものです。字の草書体をイメージしていただければと思います。また、枝の流れも対照になっています。

☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会ホームページでご覧になれます。》

[▲トップへ](#)

【注意】

●メールマガジンにおいて氏名の一部にJIS規格第1・第2水準にない文字がある場合、第1・第2水準の漢字で表記しています。

【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから](#)》

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちら
まで！

E-mail a6250-03@pref.saitama.lg.jp

埼玉県議会議務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257／FAX 048-830-4923

© 2008 Saitama Prefecture All Rights Reserved. 無断転載を禁じます。

